



## 半導体

伸長が期待される「エネルギー・環境」分野に経営リソースを集中するとともに、市場変動に強い事業体質への変革を目指します。

特に、IGBTがキーデバイスとなる、工作機械、ロボットなどの産業分野向け、ハイブリッド車、電気自動車などの自動車電装分野向けといった高付加価値分野への拡大を図ります。加えて、風力発電や太陽光発電などの新エネルギー分野の開拓も進めていきます。また、需要が拡大する「エネルギー・環境」市場に対応して国内外の生産能力の拡充を図ります。



### セグメントの有する優位性

当社グループのパワー半導体は、独自のパワーエレクトロニクス技術を核に、卓越した「プロセス技術」「デバイス技術」「応用回路技術」により高い競争力を誇ります。加えて、高品質を実現する高度な量産技術を有しています。インバータや工作機械、ロボットなどに使用される産業用IGBTモジュールにおいて、当社グループは世界トップクラスのシェアを保持しています。

億円

	2009年度	2010年度見通し	増減
売上高	707	880	+173 (+24.5%)
営業利益	-37	60	+97 ( — )

### 市場環境

パワー半導体市場は、2008年度後半から世界的な市況悪化により低調に推移しましたが、2009年度前半から中国、アジア市場を中心にパソコン等の電源分野で回復をみせ、年度後半には自動車電装分野、産業分野の急激な需要回復がみられました。2010年度は中国、アジア市場を中心に設備投資が急激に増加することが見込まれ、IGBTを中心にパワー半導体市場は好調に推移するものとみられます。

また、デジタル複写機やカラープリンタなどの画像変換を行う感光体は、流通在庫の一巡と装置生産の需要増に加え、サプライ市場の拡大によって、堅調な伸びを示すものとみえています。

### 2010年度の部門方針・戦略

パワー半導体分野では、「エネルギー・環境」分野として、社会・産業インフラや省エネ関連が事業拡大の軸となるとみえ、これらに向けた製品ポートフォリオの変革を進めていきます。

具体的には、急回復を見せる産業分野市場に加え、風力・太陽光発電やエネルギーの有効活用に寄与するパワーコンディショナ、ならびにハイブリッド車、電気自動車など環境対応車向けのパワーデバイスを中心に事業拡大を図る計画です。一方で生産体制としては、急回復する需要に対応し、マレーシア工場での生産拡充を図ります。また、2009年度に引き続き、損益分岐点売上高の引き下げに向けた体質強化に取り組み収益力強化を図ります。

大幅な効率向上が期待される次世代パワーデバイスSiC（炭化ケイ素）においては、2010年度末の量産立ち上げに向けて、(独)産業技術総合研究所と共同開発を行い、パワーエレクトロニクス分野への効果的な研究開発を進めていきます。

感光体分野では、サプライチェーン改革によって、グローバル販売チャンネル、中国一貫生産という強みを一層強化するとともに、高品質かつ低コスト化を進め、今後も伸長が見込まれる低価格普及タイプのプリンタ向けに拡販を図っていきます。